



伝えたい 日野郡のたたら製鉄

—広がりを見せたこの1年—

日野地域は、日本の伝統的な製鉄技術であるたたら製鉄が盛んで、全国でも有数の鉄の産地でした。優れた鉄である玉鋼は最上の日本刀の材料です。鉄は鉄器や農具等にも加工され、人々の生活や日本の産業振興に貢献しました。日野地域には歴史・文化的資源であるたたら遺跡がおよそ三百箇所もあり、近年、たたらを活かした旅行商品づくりや交流促進が始まっています。

エコツーリズム国際大会で たたら探訪

皆さん、エコツーリズムをご存知ですか？国内外でエコツーリズムを推進する団体や研究者が集う「エコツーリズム国際大会2013 in 鳥取」が平成25年10月に米子市で開催されました。鳥取県のイメージアップやエコツアープログラムの開発や商品化を促進しようとするものです。この大会のエクササイズ（体験型小旅行）のひとつとして、「日本一の質と生産を誇ったたたら製鉄のふるさとを訪ねるコース」が取り上げられ

ました。参加者は、呼子山たたら場やたたらたたらの楽校大宮楽舎（ともに日南町）と根雨楽舎、出雲街道根雨宿（ともに日野町）などを訪れ、歴史・文化を体感しました。ガイドの熱のこもった解説やたたらたたらの作業場の大きさをロープで実感するプログラム、燃えさがる炉に砂鉄を投入するたたら製鉄体験など、伯耆国たたら頭彰会等のガイドの皆さんが工夫されたおもてなしの数々を楽しんでいただきました。

参加者からは、「おもてなしに感動した。」「安売りしないでしっかりしたツアーに仕上げてください。」「いつでも誰でも参加できるようにしてほしい。」などの意見が寄せられました。皆さんの満足そうな顔を見てみると、たたら製鉄の歴史や文化は地域の資源であると確信できました。

境港市でミニたたら製鉄体験

皆さん、鉄山融通会所てつざんゆうつうかいしよをご存知ですか？日野郡のたたら製鉄で生産された鉄を境港から大阪や北陸

等に船出しするため、天保6年（1835）境港に置かれたのが、鉄山融通会所です。これが環日本海の拠点として境港が飛躍的に発展する基礎となったのです。そこで、平成25年11月17日にたたら製鉄体験を実施する「ミニたたら体験ワークショップ」を海とくらしの史料館（境港市花町8番地）で開催しました。

参加者は、熱い炎の炉の中に砂鉄を投入し、鉄や玉鋼の元になる金属の塊である鋼くわができる歓声をあげていました。同時にたたらたたらの歴史の解説もあり、境港の繁栄のきっかけとなった「たたら」への理解を深めていただきました。

また、今回のワークショップで作った鋼くわやたたら製鉄などの解説パネル等を展示した企画展を海とくらしの史料館で開催しました。たたら製鉄は日野郡と境港市の交流づくりに役立っていました。

たたら製鉄は日野郡の大切な宝といえます。その歴史や文化を語り伝えていくではありませんか。

日本刀づくり の匠に聞く



前田 秀士
(江府町佐川)

たたら製鉄で得られた玉鋼たまがねで作られている日本刀。鳥取県に2人しかいない刀匠のひとり前田さんを訪ね、刀づくりへの思いを聞きました。

—刀づくりのきっかけは？

昭和16年頃に刀工の父に師事し出雲の刀匠に入門した。今でも注文に応じて刀を作る。近頃まで年間24本の太刀たちを打っていたよ。

—切れ味の良さは折り紙付きの刀をお作りになることで有名ですね。

美術品としての刀だけでなく、居合切りに使う刀も打っている。関西の居合切りの達人からの注文に応えて作っているが、十数年前に千本斬りで世界的な記録を達成したと聞いている。

—威風堂々とした美しい刀ですね。

刀は形や重さなど全体のバランスが大事だ。刀の地がねの肌や刃文はなの美しさなどが優れた刀は少ない。

—刀づくりに魅力を感じますか？

良い刀が打てる嬉し。だが、刀鍛冶は一本ずつが試練といえる大変な仕事だ。刀鍛冶をして長い年月が経つが、納得のいく刀にはなかなか仕上がらない。刀づくりは奥深いところが魅力だ。今度こそ良い刀を打つぞという思いが湧いてくる。まだまだ刀鍛冶を続けたいと思っている。

前田さんは神聖な雰囲気あふれる工房で真剣な眼差しで刀を作られていました。ご親族に二尺三寸五分の守り刀を打って贈ったと話されたときの和やかな笑顔が心に残っています。日本刀には独特の魅力や文化があります。決して無くしてほしくないものです。

ツバメの子育てを応援しよう！

花のつぼみも膨らむ3月中旬ごろ、東南アジア方面からツバメが日本に渡ってきます。昔から縁起のよい鳥であると言われているツバメ。その理由はどこから来ているのでしょうか？

ツバメは、湿気の少ない爽やかな環境で、子育てを邪魔されない程度に人の出入りがある場所に巣を作ります。それらが、結果として人にとって幸せに繋がる環境や要素であり、実際に幸運な出来事が訪れることが多かったことから、縁起がよい鳥と言われるようになったのです。

しかし近年、ツバメをはじめとする身近な野鳥が減少していると言われています。

その理由として、耕地の衰退、軒のない壁面が加工されている西洋風家屋の増加などが上げられますが、ヒナが出す糞を嫌がって巣を壊してしまう人が増えていることも一因のようです。

ご存じですか？どんな野鳥でも卵を産んで子育てが始まってから許可を得ずに巣を壊すと、鳥獣を保護する法律（鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律）の違反行為となります。ツバメのヒナが巣立つまで3週間程度なので、必要であるなら巣立つから巣を落とすようにしましょう。

せっかく縁起がよくなるお墨付きをツバメにいただいているのです。よほどの理由がない限り、優しい気持ちで子育てを応援していただけたらと思います。

問 日野振興局 地域振興課 電話0859-72-2081

問 日野振興局 地域振興課 電話0859-72-2080